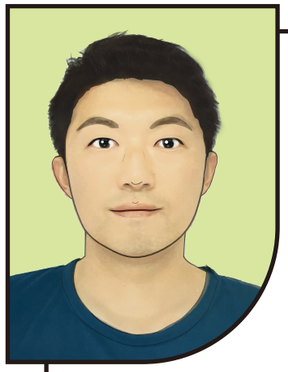
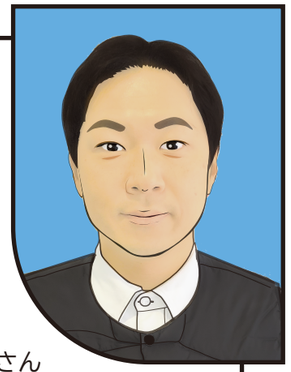
現場のプロフェッショナルにインタビュー！



追手門の修復を担当

株式会社
堀江組
建築課主任
工藤 亨さん

建築工事の現場管理として、重要文化財である旧弘前偕行社の保存修理工事や、倉庫・事務所などの新築工事に携わった経験を持つ工藤さん。
追手門の修理工事を担当し、工程管理・現況調査・実測・施工図作成などの現場管理にあたりました。



南内門の修復を担当

株式会社
マルノ建築設計
建築第１工事部
課長補佐
小田桐 健太さん

住宅、公共施設、福祉施設など、さまざまな建築物工事の施工管理（現場監督）の仕事をしている小田桐さん。
南内門の修理工事を担当し、２階屋根の銅板の葺き替え、外壁・内壁の白漆喰塗り直し、耐震補強などに携わりました。

修復工事で大変だったことを教えてください。

現場に合わせた施工図の作成です。
既存の木材にねじれが生じていたので、現状を実測して、すべて反映させた図面の製作がとても大変でした。

屋根の銅板の色合せです。
既存の銅板色に近づけるために、納得のいく仕上がりになるまで職人達と試行錯誤を重ねました。

文化財の修復は、普通の建物の工事とはまた違った苦労があるんですね。

苦労もありましたが、足場を解体していた時、市民の方に「ご苦労様でした」と声をかけてもらったことがあり、その時は頑張ったかいがあったなと思いました。

それぞれの工程でさまざまな人の手が加わっているので、完成した時は感慨深いものがありました。
日本の伝統的な技法に触れることで、自らの学びにもつながりました。

もっと知りたい人は WEB サイトもチェック！

弘前城重要文化財保存修理事業特設ページ

弘前城跡の文化財修理情報『弘前城かわら版』

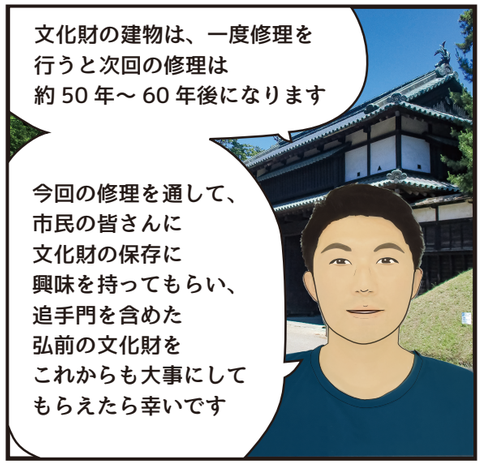
弘前城本丸石垣修理事業特設ページ

今回の修理工事をあらためて振り返ってみて、どんな思いがありますか？

学生時代に通学で通って慣れ親しんだ追手門と改めて向き合ってみて、その歴史や工法などを含め、身近にこんな立派な建物があったんだと改めて認識しました。その歴史にわずかながら関わることができ、誇らしく思います。
今回、修理工事の状況がわかりやすく伝わるよう、写真や実物の展示をしました。今まで屋根の上の鯱や鬼板の存在に気付かなかったという人もいたので、皆さんに新たな視点で追手門を見てもらうきっかけになったと思います。

普段何気なく目にしていた南内門が築 400 年以上経った今も残っていることに、改めて歴史の深さを感じました。
代々継承されてきた修理に携わることができて、嬉しく思っています。
私にとって、弘前城は子どもの頃からまちのシンボルとして身近に感じてきた存在です。大人になり、縁あって文化財の修理に携わる機会を経て、今後の世代へと大切に残していきたい、今後も携わっていきたいと考えるようになりました。

最後に、市民の皆さんにメッセージをどうぞ！



結びに

重要文化財の修理が見られるのは、実はとっても幸運なこと。

追手門では、これまでごく小規模な修理も含めて平成までに 15 回、南内門では５回、修理の記録があります。一方で、今回の修理のように長期間を要する大規模修理は少なく、追手門・南内門ともに、前回の大規模修理から約 60 年の歳月が経過しています。現在弘前城跡で進んでいる「令和の修理」は、先人の工夫や技術に触れることのできる貴重な場となります。
ぜひ弘前城跡に足を運んで、あなたも歴史の証人になってみませんか。